

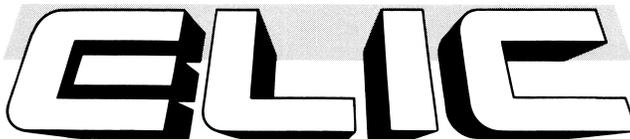
電機労働者懇談会

Electric Labor and Industry Correspondence

2009年9月10日

No 261

発行者 E L I C 編集委員会 谷口利男
108-0073 東京都港区三田3-2-20
(03)3455-6006 Fax3451-3595
郵便振替00130-3-358078ELIC編集委員会



1部100円

勇気と感動の原水禁世界大会



今年の原水爆禁止世界大会は、始まる前から盛り上がっていました。

長崎大会の初日は田上長崎市長の特別報告があり、「核兵器廃絶の流れをつくることは、市民・NGOに課せられた課題だ」と述べました。ドゥアルテ国連軍縮問題上級代表やエジプト、マレーシア、メキシコなどの政府代表の発言があり、政府代表の参加が多かったのが特徴です。

2日目は分科会が開かれ、私は「核兵器のない世界を - - 世界の運動との交流」分会に参加しました。この分科会は海外代表の参加が多く、事務局が用意した椅子が足りなくなるほどでした。オバマ大統領の演説をめぐって「平和勢力にもとまどいがあったが、核兵器推進勢力もとまどっている。私たちは核兵器廃絶に向けて畳みかけて行こう」との富田宏治・世界大会宣言起草委員長が問題提起をしました。これを受けて、オバマ演説は平和運動にチャンスを与えてくれたとの意見や、この情勢をつくり出したのは世界中で草の根の運動があったからだ。核の傘を無くすことは日本人の責任だなどの発言がありました。

世界大会運営委員会代表の高草木博氏が閉会総会で「今年の大会は文字通り勇気と元気と感動に満ちあふれた大会となった」と述べたように私たちの長年の運動がようやく成果に結びつつあることを実感することが出来ました。

(東 健郎)

今月号の紙面

- ①原水禁世界大会・長崎参加
- ②電機懇議案情勢の骨子(1/2)
- ③電機懇議案情勢の骨子(2/2)
- ④電機懇議案活動方針の骨子
- ⑤OKIセミ八王子存続の闘い
引き続き支援の訴え(伊澤氏)
- ⑥私の自慢「トランペッター」松平氏
- ⑦電機ユニオン、青年コーナー
- ⑧NEC真空硝子の雇用延長
本の紹介、集積回路